



Bewitching Mirrors

村上コレクションの古鏡

2016年 5月26日(木) ~ 7月10日(日)
● 休館日 毎週月曜日



コレクション展

鏡の魔力

鏡の歴史は古く、中国では新石器時代に青銅鏡の製作がはじまりました。戦国時代(前5世紀~前221年)に製作が本格化し、漢時代から唐時代にかけて絶頂期を迎えます。古代から中世の人々は、鏡を人の心までをも映し出す霊的な道具としても用いられていた鏡の背面(鏡背)の文様には、当時の世界観や願いがこめられています。本展では、平成22年に村上英二氏より寄贈された中国古鏡コレクションから、天地のなりたちや神仙の世界、長寿や多産といった現世的な幸福を願う吉祥文様などをもつ約70件の名品を、ご覧いただけます。

若き日の雪舟

特別企画



初公開の「芦葉達磨図」と拙宗の水墨画

上段/ 貼金緑松石象嵌花唐草文鏡 中国・唐時代 8世紀 根津美術館蔵 村上英二氏寄贈
下段/ 流墨山水図 拙宗等揚筆 日本・室町時代 15世紀 根津美術館蔵 茂木克己氏寄贈

室町時代を代表する画僧・雪舟等楊が、こどものころ「涙でねずみの絵を描いた」という伝説はよく知られています。30歳代後半まで拙宗等揚と名乗っていたことはほとんど知られていません。この時期の作品は、雪舟時代の6点もある国宝作品の陰にかくれて注目されにくいのが実情です。このたび、長らく所在不明であった拙宗の「芦葉達磨図」が米国で発見され、日本で修復されました。本展覧会は、この「芦葉達磨図」を初公開して雪舟時代の作品も加え、「若き日の雪舟」をクローズアップしようとするものです。拙宗時代をテーマとした初の展覧会が、雪舟の前半生に光を当てる機会となれば幸いです。

Japan Premiere of Bodhidharma Crossing the Yangtze on a Reed

The Brilliant Artist Sesshū in His Youth

展示室1 コレクション展「鏡の魔力 — 村上コレクションの古鏡 — 」

羽状獣文地五山字文鏡 1面 青銅
中国・戦国時代 前3世紀
根津美術館 村上英二氏寄贈

漢字の「山」に似た文様を配した鏡を「山字文鏡」とよぶ。山字文は青銅祭器の文様からモチーフを転用したといわれる。



星雲鏡 1面 青銅
中国・前漢時代 前1世紀
根津美術館蔵 村上英二氏寄贈

縁が厚く量感があり、彫りが深くシャープな鏡。星雲文は、乳とよばれる突起を多くの曲線をつないだもので、その複雑な形状は、空中に充滿する気をあらわす雲気文の一種と考えられる。



方格規矩四神鏡 1面 青銅
中国・前漢時代～新時代 前1-後1世紀
根津美術館 村上英二氏寄贈

方形と円を組み合わせた鏡全体の文様構成は、「天は円く地は四角い」という天円地方観という中国の宇宙観をあらわしている。



海獣葡萄鏡 1面 青銅
中国・唐時代 7世紀
根津美術館蔵 村上英二氏寄贈

唐時代には、西アジアに起源をもつ文様が鏡に多く取り入れられた。本作の文様はいずれも西方由来で、海獣とは西方の獅子の影響を受けた狻猊という獣のこと。唐草の葡萄は多産・豊穡・子孫繁栄を象徴する。



貼金緑松石象嵌花唐草文鏡 1面 青銅
中国・唐時代 8世紀
根津美術館 村上英二氏寄贈

鏡背にごく薄い金板をはめ込み、瑞花をあらわす。トルコ石を嵌め込み、地の部分を隙間なく金の細粒で満たした珍しい鏡である。



双鳳瑞花八花鏡 1面 青銅
中国・唐時代 8世紀
根津美術館 村上英二氏寄贈

8弁の花を象った八花鏡は、盛唐期に出現した。瑞鳥をつがいで向かい合わせる文様は、夫婦円満の象徴として婚礼に用いられた。

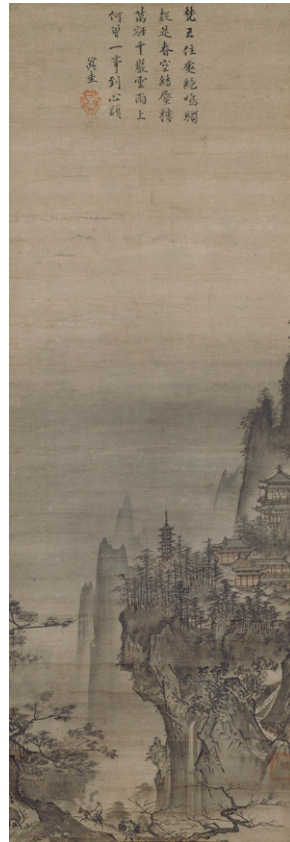
初公開



Smith College Museum of Art, Northampton, Massachusetts, Gift of Peggy Block Danziger, class of 1962, and Richard M. Danziger

ろようだるます せっしゅうとうよう じくしんけいせん
 芦葉達磨図 拙宗等揚筆 竺心慶仙賛
 1幅 紙本墨画
 日本・室町時代 15世紀
 米国 スミス・カレッジ美術館蔵

一本の芦に乗って長江を渡ったという達磨の奇跡を描く。賛者の竺心慶仙は山口に居た曹洞宗の僧。拙宗が山口に下った1450年代半ば頃から、雪舟に改号したと考えられる1457年頃の間に描かれた。長らく所在不明であったが米国で発見され、今回が初公開となる。



重要文化財
 さんすいず りょうこうしんけい
 山水図 拙宗等揚筆 龍崗真圭賛
 1幅 紙本墨画淡彩
 日本・室町時代 15世紀
 京都国立博物館蔵

ろば
 驢馬に乗る人物や梅の枝ぶり、木立に囲まれた建物など、個々のモチーフは雪舟時代の作品にも踏襲される。しかしそれらを構成する力は、この時期にはまだ不足しているようだ。



重要文化財
 はつぼくさんすいず いさんしゅうしょう
 澗墨山水図 拙宗等揚筆 以参周省賛
 1幅 紙本墨画
 日本・室町時代 15世紀
 正木美術館蔵

ダイナミックな筆の動きで岩山を形作る技法は、雪舟時代の最晩年まで踏襲された。賛者の以参周省は内大教弘の子で、拙宗の京都から山口への移住に関与したと目される禅僧。



はつぼくさんすいず 拙宗等揚筆
 澗墨山水図 拙宗等揚筆
 1幅 紙本墨画
 日本・室町時代 15世紀
 根津美術館蔵 茂木克己氏寄贈

1991年に当館に寄贈されるに際しての調査で「等揚」の印が確認され、拙宗の作と判明した。このような荒い筆さばきで描いた山水を、墨をはねちらかすという意味で「澗墨山水」とよぶ。少ない筆で風景を浮かび上がらせる。

展示室5 「花と鳥の絵画」



国宝

鶉図 伝李安忠筆 1幅 絹本着色
中国・南宋時代 12-13世紀 根津美術館蔵

秋の野を歩く鶉。精緻な筆づかいにより、部位ごとの羽根の質感が見事に描き分けられ、かつ量感も豊かである。南宋院体花鳥画の名品。



芙蓉蠨螂蝗図 1幅 絹本着色
日本・室町時代 16世紀 根津美術館蔵

ピンク色の芙蓉の花。ぼかしを用いた繊細な表現は中国画に学んだものである。蠨螂や蝗との組み合わせは、やはり中国の草虫画と関係する。

国宝「鶉図」(伝李安忠筆)を中心に、中国の南宋時代から清時代まで、および日本の室町時代の花鳥画の小品を特集します。

展示室6 「雨中の茶の湯」



みみつまぢやいれ おおえ ぜ ぜ
耳付茶入 銘 大江 膳所 1口 施釉陶器
日本・江戸時代 17世紀
根津美術館蔵

胴部が紡錘形にふくらんだ珍しい形の茶入。膳所焼の窯があった近江国瀬田村の「大江」という地名にちなんで、銘が付けられた。



せいじうりがたみずつぎ りゅうせんよう
青磁瓜形水次 龍泉窯 1口 施釉陶器
中国・南宋～元時代 13-14世紀
根津美術館蔵

胴部を瓜形にし、肩には植物を象った耳が貼り付けられている。明るい青磁釉は全体にたっぷりと掛かり、瑞々しい印象を与える。

長雨により、ともすれば陰鬱になる梅雨の時期。茶の湯では、この季節にふさわしい道具を取り合わせることで、雨の風情を楽しみます。

講演会 1

「若き日の雪舟 — 中国へ渡るまで」
 日時 6月18日(土) 午後2時～3時30分
 講師 島尾 新氏(学習院大学 教授)

講演会 2

「鏡の文様が語る世界 ～神は細部に宿る?～」
 日時 6月25日(土) 午後2時～3時30分
 講師 山中 理氏(白鶴美術館 顧問)
 定員 各130名

(申込方法)

当館ホームページの「イベント情報」の申込みフォームから、または往復はがき(1講演会1参加者につき1枚)に参加を希望される講演会名・住所・氏名(返信面にも)・電話番号を明記の上、〒107-0062 東京都港区南青山6-5-1 根津美術館講演会係宛にお送りください。先着順で定員になり次第締め切らせていただきます。

スライド
 レクチャー

日時 6月 24日(金) 「展示室2 若き日の雪舟」
 7月 1日(金) 「展示室1 鏡の魔力」
 各回午後1時30分より45分間程度

- * 展示内容について学芸員がスライドを用いてお話しします。
- * 事前申し込みは不要。各回とも開始の15分前より講堂を開場します。(定員130名)

展覧会名

コレクション展「鏡の魔力 —村上コレクションの古鏡—」
 特別企画「若き日の雪舟 —初公開の「芦葉達磨図」と拙宗の水墨画—」

主催

根津美術館

開催期間

2016年5月26日(木)～7月10日(日)

開館時間

午前10時～午後5時 [入館は午後4時30分まで]

休館日

毎週月曜日

入館料

一般1100円(900円) 学生800円(600円)

()内は20名以上の団体料金、中学生以下無料

前売券

一般900円 学生600円

アクセス

2016年4月13日(水)～5月15日(日)「国宝 燕子花図屏風」
 展開催期間中、根津美術館ミュージアムショップにて販売
 地下鉄銀座線・半蔵門線・千代田線(表参道)駅下車
 A5出口(階段)より徒歩8分、B4出口(階段とエスカレータ)
 より徒歩10分、B3出口(エレベータまたはエスカレータ)
 より徒歩10分

住所

〒107-0062 東京都港区南青山 6-5-1

お問合せ

TEL 03-3400-2536 (代表)

<http://www.nezu-muse.or.jp>

※会場は、講演会・レクチャーいずれも根津美術館講堂。

※各プログラムの聴講は無料ですが入館料をお支払いください。

特別催事

「古鏡について」(仮)

日時 5月28日(土)、6月10日(金)、7月2日(土) 午後1時半～

- * 詳細は決定し次第、HP・館内掲示でお知らせします。

次回展



四季草花図屏風 喜多川相説筆 日本・江戸時代 17世紀 根津美術館蔵

はじめての古美術鑑賞 —絵画の技法—

2016年 7月23日(土)～9月4日(日)

鑑賞を深めるために、知っておくと役に立つ技法と用語を、実際の作品で説明します。

【リリース・広報のお問合せ】 担当: 所、村岡、羽田 TEL.03-3400-2538 (直) FAX.03-3400-2436 MAIL.press@nezu-muse.or.jp